

Singapore Business Topics

阪急阪神エクスプレス、チャンギ国際空港近くに新倉庫を開設

阪急阪神エクスプレスのシンガポール現地法人、阪急阪神エクスプレス(シンガポール)は、新倉庫「阪急阪神ロジスティックハブ」をチャンギ国際空港近くのチャンギ・ノース地区にオープンしました。



阪急阪神エクスプレス(シンガポール)の開所式

新倉庫はシンガポールにある2カ所の倉庫機能を集約して多様なサービスの提供を目指しており、海上貨物の再混載業務や特定顧客向けの蔵置型サービスなどの従来業務を拡充するほか、主にアパレル産業を対象としたバイヤーズコンソリデーションなどの新規事業にも進出します。また、空調ルームを設置して医療機器や素材関連の倉庫管理も行います。

近年、シンガポールは集荷した海外混載貨物を同国で再混載してインドやバングラデシュなどに転送する「サザンクロスサービス」の重要拠点になっています。岡藤正策社長は、新倉庫を「アジア戦略強化の象徴的施設」と位置づけており、ここを拠点にアジア地域でのネットワーク拡大を加速していく考えを示しています。

新倉庫は4階建て、延べ床面積は1万2000平方メートルで、従来の倉庫の合計面積の2倍以上となります。

ヤマトHD、シンガポール国立大学と共同研究、15万SGDを拠出

ヤマトホールディングスは、およそ900万円(15万SGD)を拠出してシンガポール国立大学(NUS)と共同研究基金「Yamato Faculty Research Fund」を立ち上げました。研究期間は2014年7月までの3年間で、主にビジネス分析論に基づいた環境配慮型ロジスティクスや宅配便サービスのあり方の研究を行います。

木川眞社長は10月13日に「The Power of Last One Mile(ラストワンマイルの力)」と題した講演をNUSで行い、その中で寄付金をNUSビジネススクール学部長のBernard Yeung教授に手渡ししました。「ラストワンマイル」はヤマト運輸が提唱する取り組みで、物流管理を超えた顧客サービスを提供すると共にサプライチェーンの効率性を高めることを目的としています。

木川社長は、共同基金への寄付に関して、「CSRの一環として、NUSの事業や環境によい影響を与える持続可能な開発の研究を支援していきたい」と述べました。Yeung教授はサプライチェーンの効率化は企業にとって必要条件である点を指摘、「基金設立により、環境配慮型ロジスティクスやイノベーションに富んだ宅配便サービスの研究が可能になる」と感謝の意を表明しました。

研究チームはNUS側3名とヤマトグループ側3名程度からなります。NUSはヤマトホールディングスからの寄付金の他、教育省から同額程度の助成金を受ける予定です。

*記事中の通貨換算レートは、1シンガポールドル(SGD)=60日本円(2011年12月3日現在)で算出しています